退 任 の あ い さ つ

県民の期待に応えるセンターに！

前所長　　伊藤　博雅

3月31日をもちまして，工業技術センター所長を最後に35年間勤務しました鹿児島県を退職いたしました。これまで御指導，御支援を賜りました産，学，官の皆様方に心からお礼を申し上げます。

昭和46年に県に採用され，工業試験場，工業技術センター，（株）鹿児島頭脳センター，工業振興課を経まして最後の2年間は工業技術センター所長として務めて参りました。所長としてたいしたことはできませんでしたが，職員や産業界の皆様の御支援があって，任務を全うできたものと感謝申し上げます。

この2年間を振り返ってみますと，産業・経済情勢は，国内外における競争の激化，少子高齢化の進行，国際化やＩＴ革命などの高度情報化の進展，環境問題，食の安心・安全に対する関心の高まりなどを背景に，これまでの社会・経済システムの再構築が求められるなど大きな転換期を迎えた時期でありました。

当県におきましては，九州新幹線の一部開業や焼酎業界及び電子関連業界の好況など一部に明るさが見えながらも，全体としては依然厳しい状況にありました。

このような中で，県は新たに策定した「21世紀新かごしま総合計画」の中で，「創造性あふれ力強く伸びゆく産業の振興」を県政の重点課題として位置づけ，各般の施策を積極的に推進いたしました。

工業技術センターでも，県財政厳しい中ではありましたが，研究成果が技術移転され実用化につながるよう企業との共同研究や経済産業省の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」等の公募型事業への参画などに積極的に取り組んで参りました。

16年度は共同研究14件，受託研究4件，17年度は共同研究11件，受託研究5件に上っております。これらの研究成果から「携帯電話による茶畑の監視・制御システム」や「紫やオレンジ色のサツマイモからのイモみそ」が商品化されました。また，この3月には，県内企業と特許権実施契約を結んでおりました「高性能バルーン製造装置」の1号機が完成し，国内販売会社を通じカナダへ輸出されるなど着実に実績を上げてきました。

このように，商品化されたものはもちろん，研究成果や研究活動・技術支援活動を広く県民の方々に知っていただくために，情報誌への投稿や取材協力，全国での受賞及び学会賞等機会を捉え，できる限り報道発表を行い情報発信して参りました。

一方，当センターは，産業支援機関である（財）かごしま産業支援センターや（社）鹿児島県工業倶楽部との連携強化を図りながら，また，研究シーズの源泉である鹿児島大学や鹿児島工業高等専門学校などをはじめ，内外の学術研究機関との連携を深めながら，地域資源を中心に実用化に近いところで県内中小企業のベストパートナーとなるべく努力して参りました。

今後は，さらに企業ニーズや市場ニーズの把握に努め，産学官が連携して付加価値の高い新製品・新技術の創出に貢献し，産業界をはじめ県民の皆様から期待される試験研究機関を目指していただきたいと思っております。

最後に，鹿児島県産業界の皆様の益々の御発展を祈念しまして，退職の御挨拶と致します。